

底生生物からみた松川浦の 底質環境の評価について

福島県水産試験場相馬支場
平成14年度水産試験場事業報告書

1 部門名

水産業－海洋生産－漁場環境
分類コード 19-01-11000000

2 担当者

田中利幸

3 要旨

松川浦で平成8年に実施した底生生物調査と底質調査の資料を用いて、多毛類、貝類の底生生物群集構造と底質環境要因の関係を明らかにした。さらに、同海域で過去3回実施した底生生物調査の結果から、各生物群集の分布状況を比較し、松川浦内のアサリ漁場における底質環境の変化を推察した。

(1) 底生生物群集構造と底質環境要因の関係

クラスター解析を行い、各調査点の生物群集を類型化した。

ア 出現生物種類が比較的多く、個体数密度の高い群集が見られる底質環境はシルト含有率が低く、窒素、リン等富栄養化物質が少ない傾向がみられた。

イ 出現生物種類が少なく、個体数密度の低い群集が見られる底質環境は、シルト含有率が高く、富栄養化物質が多い傾向がみられた。

以上の結果から、砂礫状の底質は底生生物の生息環境として条件が良く、泥状の底質は生息環境として厳しいことが推察された。

(2) 過去3回の調査における生物群集の分布状況

昭和58年、平成2年、平成8年における生物群集の分布を比較すると、アサリで代表される群集は、各年とも広範囲に分布しており、他の群集では年ごとに出現範囲、出現位置が異なる傾向がみられた。平成8年では、アサリ群集と類似性の低い群集の分布域が拡大しており、これがアサリの低密度化を考えるうえで一つの指標となる可能性が示唆された。

4 その他の資料等

平成10年度水産試験場事業報告書P184～190
平成8年度水産試験場事業報告書P233～246、P261～269
平成2年度水産試験場事業報告書P195～204
松川浦内底生生物調査報告資料(昭和58年)
海洋環境調査法 日本海洋学会編(1979)